

各位

川遊びの中学2年生水難事故(沖縄タイムス 新聞報道より引用)

8月10日(火)午後1時50分頃、浦添市当山の牧港川で中学2年生の男子生徒が水深2.5mの川底で見つかり、心肺停止の状態にて病院に搬送されたが、約2時間後に死亡が確認された。



川遊びの中2水死

牧港川 深みで溺れたか

10日午後1時50分ごろ、浦添市当山の牧港川で「川で遊んでいた中学生のうち1人の姿が見えなくなった」と119番通報があった。浦添署や浦添市消防本部によると、水深2.5mの川底で中学2年の宇座啓太さん(14)＝同市IIが見つかり、心肺停止の状態にて病院に搬送されたが約2時間後に死亡が確認され

た。一緒に遊んでいた別の男子中学生(14)も川の水を飲んで頭痛や吐き気を訴えたため搬送されたが、命に別条はない。署は宇座さんが川の深みにハマり、水を飲んで溺れたとみて詳しく調べている。現場となった牧港川は浦西中学校体育館のすぐそばを流れ、川幅も広く淵のよ

うになっている。川で子どもたちが遊べるよう段々になつたスロープもある。中学生は夏休み期間中で、宇座さんとその友人は午後1時すぎから、Tシャツとスポン姿で遊泳していたという。近くでは別の中学生グループが釣りをしていた。消防などによると、最深部は3m以上あったという。当時、河川の増水などの異常は確認されていなかった。

釣りをしていた中学生らが遊泳していた宇座さんらの異変に気付き通報した。警察や消防によると、過去に現場付近での目立った水難事故は把握していないという。

水難事故を未然に防ぐために

○ 危険箇所の把握

魚とり・釣りでは、転落等のおそれがある場所、水泳や水遊びでは、水(海)藻が繁茂している場所、水温の変化や水流の激しい場所、深みのある場所等の危険箇所を事前に把握して、近づかない。また、子供を危険箇所に近づけない。

○ 的確な状況判断

風雨、落雷等の天候不良時や上流で雨が降っているなど、河川の増水のおそれが高いときには、釣りや水泳、中洲や河原でのバーベキューなどを行わない。

○ ライフジャケットの活用

釣りやボート等で水辺に行くときは、必ずライフジャケットを着用(体のサイズに合った物を選び、正しく着用)する。

○ 遊泳時の安全確保

- ・ 掲示板、標識等により危険区域と標示された区域内に入らない。
- ・ 遊泳区域を標示する標識、浮き等を移動し、又は損壊しない。
- ・ 遊泳区域以外の水域で遊泳しない。
- ・ 遊泳中、他人に抱きつくなどの遊泳上危険な行為をしない。
- ・ 遊泳に当たっては、水深、水流を考慮し安全な方法で遊泳する。

・ 開設されていない海水浴場は、監視員が不在であるなど安全が確保されていないため、開設の有無、監視員の存在等を確認する。

○ 保護者等の付添い

子供の水難防止のため、子供一人では水遊び等をさせず、幼児や泳げない学童等には、必ずライフジャケットを着用させ、その者を保護する責任のある者が付き添うなどして、目を離さないようにする。

※沖縄県の水難事故による死者は約7割が沖縄県民であり、過去5年間では43名の方が事故死しております。(交通事故死亡者の2倍)各校においては、未然防止の観点から、じんじんメール等を活用して、水難事故の防止について注意喚起を行うとともに、海や川へのパトロールを行う等、ご対応いただきますよう、よろしくお願い致します。